



Subaru

男声合唱団 ニュース№693

19. 6. 10

13回コンサート予定曲と19年合発曲を レッスン!

6月7日

□ 6月7日(金) 18:00~20:30 昂定例レッスンが開催されました。

奥村さんの体操・千秋さんのヴォイストレーニングにはじまり、本並先生の指揮で、まず第13回コンサート予定曲「懐かしきケンタッキーの我が家」と「U BoJ!」を、休憩・連絡報告に引き続き、「見上げてごらん夜の星を」、「白樺」(ロシア民謡)と、今年のうたごえ祭典合唱発表曲の「日々草」をレッスンしました。ピアノ伴奏は門万沙子さん。



□ 13回コンサート(2020年5月24日(日)クレオ大阪中央)の演奏曲目・構成はほぼ決まり、昂が歌う曲目は19曲(アンコール2曲含む。)うち、新曲7曲を予定(変更有り)。

「懐かしきケンタッキーの我が家」は、5月19日のレッスンで初めて取り上げ、今日は2回目のレッスン。まず各パート毎の音取りから始まり、リズム・音程の正確さを確認、そのうえで

4パートを合わせるべく、何度も繰り返し練習しました。

「U BoJ!」は、まず指揮者・技術部から、この曲の成立過程・背景・内容等が詳細に語られ、アカペラ男声4部の醍醐味を味わうべく、今日は第1回目のレッスン。譜面を読みながら、メロディ・リズム・パートの音取りを、そして歌詞(クロアチア語)を合わせていきました。

参加者は全33名でした。

(参考: 昂13回コンサート新曲一覧)

・草競馬(フォスター) 新譜あり難易度初~中級

・DINDARU DANDARU 難易度中級(アカペラ)(ラトビアの曲 アレンジ中、初の試み)

・U BoJ!(チェコ) 新譜あり難易度中級(アカペラ) 原語か?初の試み

・懐かしのケンタッキーの我が家(フォスター) 新譜あり難易度初~中級

・見上げてごらん夜の星を 難易度初~中級(アカペラ)

・方正の青い空(榊原編)(アカペラ) 千秋さんソロと合唱

・昂はうたう「昂」初の創作曲

(参考資料) 「朝露」再考 (T1:若園さんより投稿)

安準模著・前田真彦訳『韓国 歌の旅』(白帝社 A5 179p 2,000円)より

「26 朝露——1970年

長い夜をへて 葉ごとについた
真珠よりもっと美しい 朝露のように
私の心に悲しみが 一粒一粒結ぶとき
朝の丘に登り 小さな微笑み(ほほえみ)を学ぶ
太陽は墓地の丘の上に 赤く燃えあがり
真昼の蒸しかえる暑さは 私の試練である
私は今行こう あの荒れ果てた荒野へ
悲しみすべてを捨てて 私は今行こう

1970年代は、初めから息の詰まる時代だった。1970年、金芝河(キムジハ)の詩「五賊」の問題を皮切りに、1971年には国家非常事態宣言がなされ、国家保安法が通過した。1972年10月には国会が解散され、国家非常戒厳令が発令され、維新憲法が公布された。朴正熙(パクチョンヒ)政権の独裁が本格的に始められた時期であった。

一方、1960年代末からベトナム戦争に対する反戦運動として始められたアメリカのフォークソングの影響を受け、1970年初めに韓国の若者の間で、ギターとギターに代表されるフォークソング文化が始まった。若者たちは歌を通して社会の矛盾を批判し、新しい世の中を渴望した。

アメリカと日本のフォークソングがそうであったように、韓国のフォークソングも社会的矛盾と民衆の葛藤を描いた歌が多い。社会性の強い歌は「民衆歌謡」と呼ばれる一つのジャンルとして定着し、その命脈を保っている。

1995年6月20日付け東亜日報、「韓国歌謡100曲」という特集記事が掲載された。光復50周年を迎えてMBC文化放送が歌謡専門家たちを対象に、世論調査を通じて韓国歌謡100曲を選定した内容だったが、1位は「朝露」だった。

「朝露」は韓国の代表的な民衆歌謡として、1970年金敏基(キムミンギ)(1951～)が作詞作曲し、フォーク歌手楊姫銀(ヤンヒウン)(1952～)がデビュー曲として発表した歌である。

この歌は、1970年から今日に至るまで、韓国の民衆歌謡の古典として歌われ続けているが、しかし自由に歌えたわけではなかった。

この歌が発表された当時は、韓国歌謡を世界的水準に高めた歌という評価を受けたが、1975年「公演活動の浄化」に関連して、大統領の緊急措置9号に引っかかり、<放送不適合>という曖昧な理由で禁止曲にされてしまった。

一時は、この曲を歌ったという理由だけで思想が疑われた。韓国では1965年以後、越北作家の作品だとか、メロディと歌謡内容が退廃的で扇情的、低俗的、剽窃、日本風、悲嘆、そして時代に合わず不信感を助長するなどの理由でたくさんの歌を<禁止曲>として規制してきた。しかし「朝露」が禁止された理由は、今も確かなことはわかっていない。ただ当時のうわさによれば、歌詞の<長い夜>は朴正熙(パクチョンヒ)政権を意味し、<太陽>は金日成(キムイルソン)体制をさしているから「朝露」は「金日成賛歌」になる、という理由で禁止になったと言われている。幸い1987年6月、文化解禁になり、自由に歌えるようになった。

金敏基(キムミンギ)は「朝露」のために長らく音楽活動を禁止されたことはもちろん、自分の名前で作品を発表することさえできなかった。

1987年6月、民主化運動が最高潮に達した時、ソウルの真ん中で100万の民衆が「朝露」を歌ってデモを行った。韓国人たちは歌を通して反独裁運動を行ったのである。歌は一つの武器であり、思想だったのである。

「朝露」は1970年代維新体制反対のデモ歌として出発し、1980年代は民主化運動の主題歌として、また反体制運動を象徴する歌として歌われてきた。詩人金芝河氏は1994年ソウル音盤から発売された「金敏基歌全集」の序文で、金敏基と「朝露」を次のように評した。

「金敏基は優れた吟遊詩人である。捨てられたわびしさ、悲しさ、そして寂しさを貫く汚れなく澄み切った叙情のために、暗さはむしろたくましさ、快活さに変化している。彼の歌詞には死が宿っている。しかし、彼の音楽を聴けば復活のよろこびを感じることができる。(中略) その絶頂が「朝露」である。生の荒野へと無限に開かれた「朝露」の最後の小節は、約束と創造の地に旅立つ悲しい流浪民の福音だった。(攻略)」

「朝露」でデビューした歌手楊姫銀(ヤンヒウン)は、優れた音楽性と特異な声で韓国社会の時代相を歌った知性派歌手である。彼女はこの歌以外にも「実らぬ愛」「野の道にそって」など、1970年代の古典的な歌謡をたくさん歌い、現在まで300回以上の公演で10万人以上の観客を動員した、韓国フォークソング界の女王である。

1998年、政府樹立50周年記念で、韓国が生んだ世界的ゴルフ選手朴セリの公益広告であったが、金敏基が作曲し楊姫銀が歌う「常緑樹(サンノクス)」が背景音楽として使われた。これによって金敏基と楊姫銀は政府から感謝杯を受けた。彼らは音楽活動30余年にして初めて、公的に政府から認知されたということになる。

私は、良い歌というのはその歌を歌うとき、失った自分自身を思い出させてくれるものだと考える。「朝露」はそういう歌である。一人で歌えば悲しく、みんなで歌えば何か力が湧いてくる歌である。歌とは時代を映す鏡だと言われる。金敏基は「朝露」以外にも多くの歌を創作したが、彼の歌は叙情的でありながらも、時代のメッセージを代弁する説得力のある歌ばかりである。胸に迫ってこない曲は一曲もない。歌の素材が、その時々々の被支配者階級の心情を吐露する、真実の歌となっているためである。

金敏基氏は1994年、ソウル音盤から自身が歌う40曲をCD4枚にまとめた。その解説に自ら次のように語っている。「この地の辛かった一時代をともに生きてきた人にこの歌を捧げます。

1994. 1. 金敏基」と。

彼は最近、ソウルの大学路(テハンノ)にある劇団「ハクジョン」の代表をしている。小劇場は文化芸術人を育てる子宮のような存在だから・・・。

著者・安準模(アン・ジュンモ)：1959年韓国全羅北道出身。1998年9月～2002年9月大阪白頭学院建国中高等学校にて音楽科担当、専攻は歌の文化史。

訳者・前田真彦(まえだただひこ)：1964年富山県出身。東京外国語大学出身。現、白頭学院建国幼・小・中・高校にて日本語と韓国語を教える。1998年通訳ガイド免許取得。

「朝露」(アチミスル)について、若園さんより貴重な参考文献の案内をいただきました。19年うたごえの昴の合発曲・13回昴コンサートの演奏曲です。参考にしていただきますよう。(編集子)